

雲北陵月報

No. 439

令和4年3月9日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷

令和三年度 出雲北陵高等学校 第一二三回 卒業証書授与式

3月2日 本校体育館

未明から深い霧に包まれていたものの、夜明けとともに晴れ間が広がり快晴の朝を迎えた3月2日、第113回卒業証書授与式が挙行された。本年度も、昨年同様新型コロナウイルス感染拡大により、来賓と在校生の参列を取りやめで行われた。

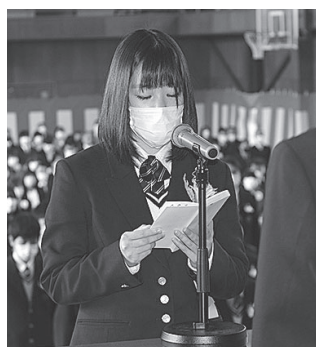
国歌が流れ厳肅な雰囲気の中、162名の代表として加田 凜さんに水谷厚志

校長より卒業証書が授与された。式辞の中で学校長は、平成から令和への改元という節目に入学し、また、新型コロナウイルス感染の拡大により日常が一変する波乱の3年間を過ごした卒業生は、長期の休校をはじめ、各種大会や学校行事の中止により辛い思いをしたが、挫けることなく努力を重ね、本年度は万全な感染予防対策の中で再開された各種行事や大会に於いて輝かしい功績を残したことを称えた。次に、2つのことを鑑の言葉として卒業生に語りかけた。一つは、「感謝の心」を忘れないこと。東京オリンピックや北京オリンピックのメダリストが周囲への感謝の言葉を口にしたことや、中国の故事成句にある「引水思源」という言葉を紹介して、人の助けなしには



学校長式辞

生きられないことを肝に命じ、「感謝」の気持ちを持ち続けられる人であって欲しいと語りかけた。2つ目は「進取の気概」の意味を話し、激動する社会を、新たな可能性や未来を切り拓くチャンスと捉えて、若者らしい勇氣と柔軟な思考で新たな挑戦をしていくことを期待していると述べるとともに、校訓「柔しく剛く」の教えを体現して欲しいと結んだ。理事長とPTA会長の祝辞は、時間の都合で文章により配布された。その



答辞 (代表 狩野 愛佳)



卒業証書授与 (代表 加田 凜)

中で理事長は、仕事と家庭を大切にすること。また、吉川英治の苦難の人生を振り返り、彼の自筆の書「我以外皆吾師」のように、全てのものが我が師であることを悟り、悔いのない人生を歩んで欲しいと締め括った。

卒業生を代表して狩野愛佳さんが、三年生という最後の年に、コロナ禍ではあったが、前向きに取り組んだ学校行事や部活動を振り返り、願いが叶って全国大会に出場できたことの喜びを話し、高校生活を通して先生方や両親の支えに感謝するとともに、友と励まし合いながら夢を叶える喜びを実感し、夢を追い求められることが何より幸せなことであると述べた。

式の最後は、三年間歌い慣れ親しんだ校歌を胸に、卒業生は参列者の大きな拍手に見送られながら、思い出深い学び舎をあとにした。

卒業生受賞者一覧

日本私立中学高等学校連合会会長賞

原田哲多 (34北陵)

島根県高等学校体育連盟表彰

優秀選手賞

原田哲多 (34北陵)

島根県吹奏楽連盟表彰

下高呂芽衣 (35北陵)

升田結依 (35北陵)

島根県高等学校体育連盟

バスケットボール専門部表彰和上賞

濱井倫彦 (35北陵)

島根県高等学校野球連盟部員表彰

小山翔大 (34北陵)

島根県高等学校体育連盟功労賞

柳谷怜映 (32北陵)

皆勤賞 (3カ年)

岩見 颯 (31北陵)

安食果南 (33北陵)

野津広人 (33北陵)

近藤志音 (34北陵)

原田哲多 (34北陵)

手銭杏佳 (35北陵)

特別教育活動功労賞

(団体賞)

合唱部

吹奏楽部

写真部

男子バスケットボール部

なぎなた部

(個人賞)

美術部

山崎あかり (36北陵)・佐藤至将 (36北陵)

ソフトテニス部

神田好太郎 (32北陵)

卓球部

原田哲多 (34北陵)

卒業生会入会式



時 3月1日
於 本校体育館
卒業式を翌日に控えた
3月1日(火)、本年度卒業
生162名の卒業生会(和風
会)入会式が挙行された。
入会式では、高橋裕三

副会長から「社会に出て、巣立った学
び舎にいつでも足を運べるような環境を
作っていききたい。卒業後も、出雲北陵高
等学校の卒業生として誇りを持って頑張
って欲しい」と力強いお言葉で卒業生達
を激励いただいた。

今後、更に卒業生会の輪が広がってい
くよう努力したい。

(卒業生会事務局・竹内康貴)

卒業直前講座



時 2月17日
於 本校黎明ホール
2月9日に開催された
卒業直前講座に続き、
この日は「人権・同和教
育講座」を開催した。桑

姓・桑原)先生をお招きし、ご講演いた
だき、次男桑原大輔さん(妙美先生の兄)
を亡くされた話を通じて命の尊さ、大切
さについて深く考える時間を提供してい
ただいた。自分の命は自分だけのものでは
なく、大切に思っている他者がたくさ
んいること、一人で悩み込まず身近な家
族や友達に勇気を出して相談することは
大切なことであると再認識した。妙美先
生と大輔さんはともに本校野球部のOB
でもあり、生徒自身も身近な存在である
先輩の話に聞き入っていた。他者の気持
ちに寄り添える優しさを持った社会人に
なってくれることを期待している。

第66回 全商情報処理検定合格者

時 1月30日
2年生を対象に全商情報処理検定が
行われた。休校期間と重なり、実技試
験の対策は十分にはできなかったもの
の、18人が3級に合格した。

写真部

写真部校外展

「木次マルシェリーズ」写真展
「イオンモール出雲」写真展 同時開催!

おかげさまで、2月
は2つの写真展を同
時に開催する機会に
恵まれた。1つは木次
駅隣のショッピング
モール「マルシェリー
ズ」での写真展。こ
こでは「写真甲子園
2021」での作品を展示させていた
だいた。反響も大きく、木次という場
所の文化レベルの高さを感じた。

もう1つは恒例となってきた「イオ
ンモール出雲」での写真展。今回は島
根県高校写真展をはじめ、各種フォト
コンテストでの入賞作品など、令和3
年度に制作した計28点を展示させてい
ただいた。今回初の試みとして「コメ
ントノート」を置かせていただいたと
ころ、想像以上に多くの方々から写真
展の感想をいただくことができた。両
方の展示において、
SNSや新聞でも
取り上げていただ
き、感謝の気持ち
で一杯である。今
後とも応援をよろ
しくお願い致しま
す。



「イオンモール出雲」にて

第二十四回 中学校卒業証書授与式

時 3月9日 中高棟ホール

「卒業を祝して」



副校長
菅田 修司

桜の開花の便りが気になるこの頃、36
名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう
ございます。重ねて三年間、お子様の成
長を支えてくださるとともに、本校の教
育をご支援いただいた保護者の皆様、こ
の度のお子様のご卒業、誠におめでとう
ございます。

卒業生の皆さんは平成31年、令和の年
号が始まる年に、出雲市内14校、県外3校
のあわせて17の小学校から、自らの意思
で本校を選び、入学されました。初めて
の制服を身にまとい、まだあだなさの
残る、緊張感と決意に満ちた皆さんの表
情を昨日のように思い出しています。顔
も名前も知らない同級生や先輩との出会
い、切磋琢磨し、学業やスポーツに懸命
に取り組んできた皆さんは、時には考え
方、感じ方の違いから悩み苦しんだつら
い時期もありましたが、自分達の力で乗
り越えてきました。互いの違いを認め尊
重し合い、今ではかけがえのない信頼で
結ばれています。この学び舎で皆さんは
間違いなく人間的にたくましく成長され
ました。このように周囲に対する思いや
りを持った皆さんなら、この先に待ち受
けているであろう困難も、きつと乗り越
えていけると確信しています。どうか本
校で培った友情を今後も大切にしてくだ
さい。

そしてこの3年間、皆さんを影日向な
く支えてくださった親御さんをはじめ、
周囲の方々への感謝を忘れないで欲しい

贈る言葉



三年一組担任
河野 高幸

卒業おめでとうございます。初めて中
学校の担任を持たせていただき、三年間
この学年に関わらせていただきました。
私自身、未熟で迷惑をかけることもあり
ましたが、皆さんの前向きな姿勢と頑張
りが、いつも私の支えとなっていました。
皆さんとともに楽しく過ごせた日々は、
一生忘れることはないでしょう。本当に
有難うございました。

新型コロナウイルスの影響で、学習環
境や日常生活で多くの変化や制限がかか
り、最も我慢を強いられる年代ではなか
ったかなと思います。成長できるこの中
学校生活をこのような形で過ごすことに
なってしまうましたが、将来社会に貢献
していく際、誰よりも広い視野で物事を
捉えることができるはずです。一つの物
事をマイナスだけで考えることよりも、
プラスの側面も見つけて自分を高めてい
ってください。この中学校生活で学んだ
ことを忘れず、健康に気をつけて、楽し
い人生を歩んでください。卒業おめでとう
う!

「卒業おめでとう」が届きます



三年二組担任
相場 翔太

時間の流れはとも早く、気が付けば卒業式を迎える季節となりました。春は別れの季節と呼ばれるかもしれませんが、こうしてまた卒業生が旅立つ姿を見ると、その言葉を改めて実感します。

さて、これから高校生活という新しい門出を迎えるにあたり、期待に大きく胸を膨らませていることかと思えます。3年間という限られた時間の中でたくさんの人と出会い、たくさんの事を学び、たくさんの経験をすることでしょう。その全てが皆さんの人生における大きな力になるかと思っています。

「やる気」「元氣」「換気」をクラスターマに掲げて一年間を過ごしてきました。3年2組担任として「換気」が不要な世の中になること、そして、皆さんが「やる気」「元氣」に満ち溢れた高校生活を送ることを心から祈っています。皆さんと過ごした時間は短いものではありませんが、たくさんの良き思い出をプレゼントしてもらいました。本当に有難うございました。改めて卒業おめでとうございました。

★卒業記念品★ ワイヤレスマイク スピーカー マイクスタンド

一本
二台

中学校卒業生表彰者

日本私立中学高等学校連合会会長賞

佐々木璃子(中3)

島根県中学校体育連盟会長賞

〈卓球部〉

小野 泰和(中3)

〈なぎなた部〉
神野 真輝(中3)

令和三年度

「総合的な学習の時間」発表会

時 2月22日

「ふるさと島根から世界へ」の主題のもと、各学年がそれぞれのテーマで活動した成果を発表しました。また、今年度は保護者の皆様に動画配信を行いました。

中学1年

中学1年生は、昨年の11月4日に松江市内の「松江城」を中心に研修を実施しました。現地では、3班に分かれ、1班が「武家屋敷」、2班が「松江の神社」、3班が「松江の歴史」について調べました。国宝松江城の歴史、構造などを調べることから、当時の人々の暮らしを知ることでできました。現代の私達の生活は豊かで便利ですが、様々な課題があり、昔の人の考え方も大変参考になりました。班別学習をすることで、仲間と協力することができ、目標を達成するための立案や調べたことを発表するための方法、タブレットの利用の仕方を学ぶことができました。

中学2年

中学2年生は、出雲市内の13事業所にご協力いただき、昨年の11月4日に職場体験学習をさせていただきました。その体験学習を通じて、一人一人が「職場」での仕事内容、将来の希望「職種」の調べ学習を事前に行いました。



実際の体験で改めて学ぶことがたくさんありました。職場体験の前には、電話でのあいさつと打ち合わせのための訪問を、体験終了後には礼状書きを行いました。体験先の方々とコミュニケーションを通して充実した体験学習となりました。

中学3年

中学3年生は、昨年9月25～27日にオーストラリア語学研修旅行の代替えとして行った隠岐研修旅行、10月25～27日に実施した英語研修について発表をしました。

1組、2組の発表は、それぞれが工夫を凝らした動画やクイズ、寸劇を交え、とても楽しいものでした。

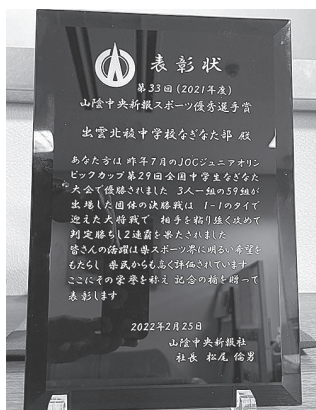
今年は、動画配信を行ったため、各クラス20分という制限の中での発表となりましたが、どのクラスも自分達の研修のまとめをしっかり伝えることができました。また、質疑応答の際、質問者は、発表者の良かった点を伝えてから質問をするというマナーも素晴らしかったです。この発表会を通じて、学んだこと、得たことを今後の学校生活に生かして欲しいと思います。



山陰中央新報社スポーツ優秀選手受賞

去る2月25日、山陰中央新報社にて第33回山陰中央新報スポーツ優秀選手賞の表彰式が行われ、本校中学校なぎなた部が全国中学生大会団体優勝したことを評価していただき、表彰された。今年度は7団体6個人が受賞。全国大会2位以上の受賞規定の中、本校なぎなた部が表彰していただけたことを非常に嬉しく思う。本校でも多くの部活動が高い目標を持ち日々頑張っている。今回の受賞が少しでも励みとなれば幸いである。今後も変わらず高い目標を持ち精進していきたい。

(なぎなた部顧問 井上 美代)



乙案内

第20回出雲北陵高等学校進級展

日時…3月26日(土) 9時～17時
3月27日(日) 9時～16時

場所…出雲文化伝承館

縁結び交流館

(出雲市浜町520)

入場料…無料

多数のご来場お待ちしております！

作品と研究

高校2年生の現代文の授業で室生犀星作『小景異情』を読みました。生徒達はどのような感想を持ったのでしょうか。

小景異情

室生犀星

ふるさは遠きにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの
よしや
うらぶれて異土の乞食となるとても
帰るところにあるまじや
ひとり都のゆふぐれに
ふるさとおもひ涙ぐむ
そのころもて
遠きみやこにかへらばや
遠きみやこにかへらばや
遠きみやこにかへらばや

廣本彩花(24才)

この詩は作者の故郷である金沢で書かれたと私は思う。前半は、「ふるさは遠く離れた場所から懐かしく思い悲しくうたふのがいい、異土で乞食になっても帰る場所ではない」とうたっており、金沢へ帰るべきではなかったという悔しさが表れていると思う。後半は、「東京の夕暮れに一人で故郷を懐かしく思っ涙ぐむ、そのような心で遠きみやこに帰りたい」とある。「そのような心」とはどんな心か、どんな心で「みやこ(東京)」に帰りたいと思っっているのかは、正直言うあまり理解で

きなかった。なぜなら、ここである「みやこ」には色々な捉え方があると思うからだ。「ひとり都の夕暮れに」の「都」と同様に東京を指しているのなら、都を「みやこ」と平仮名で示した意図は何なのだろうか？それとも単純に、作者は初めから東京にいて「みやこ」は金沢を指すのか、はたまた作者の心の中に残っているかつての故郷のことを指しているのか？など、捉え方で全然違ってくるのを感じた。この詩の解釈の違いによって生じる違和感も含め、「小景異情」は深い詩だと感じた。

日下和軌(24才)

僕にとつてのふるさは、いつでも恋しいもので、帰りたい場所だが、作者である室生犀星は全く逆のことを考えていて驚いた。「ふるさは、落ちぶれて異土で乞食になったとしても帰るところではない」とあつて作者にそこまで強い気持ちにさせる原因が分からず衝撃を受けた。この詩を読んで僕が考えることは、作者は本当はふるさとのことを愛しているけれども、遠い都に帰らなければいけない自分を説得するため、わざとふるさが居心地の悪い場所だと言っているのではないかということだ。なぜなら「遠い都に帰りたい」という言葉をリフレインを使って表現しているからだ。普通、自分の願望は一度述べれば十分だが、ここで

は二度繰り返すことで強調されている。つまり、作者は実際は逆のことを思っているのだが、それを封じ込めるため二回言ったと考えられるのである。作者の相反する気持ちがこの詩の面白さだ。

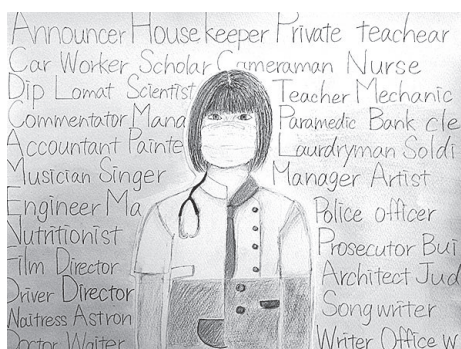
足立 翔(24才)

私はこの詩を読んで、作者の室生犀星はとてもかわいそうな人だと思いました。自分が将来、鳥根を出て他県で生活していたとしたら、今まで自分が生まれ育ったこのふるさとに帰りたいと思う日が来るであろうし、帰ってきたとしても嫌な気持ちになることはないと思います。しかし、ここで作者は正反対のことを思っており、初めて読んだときには驚きました。ふるさとでどんなことがあったのかは書かれていないので分かりません。それゆえ作者の気持ちに共感することはできないけれど、今後自分も犀星と同じ気持ちになる出来事があるかもしれません。室生犀星の思いに共感したいという気持ちがないわけではないですが、今は自分が作者の気持ちに共感できないということが幸せだと思います。作者の気持ちに共感する日が来ないように願いたいです。

森脇友智(24才)

私はこの詩を初読したとき、作者の犀星には何かしらの未練などがある

のかなと思いました。実はこの作品と出会ったのは小学生の頃で、詩の朗読をしました。その頃は当然言葉もあまり知らず、どういった詩なのかは理解できなかったのですが、「ふるさと」に対して何か感じているのだなと思いました。今回読んでみて、作品の前半部分での「ふるさと」に対する気持ちと後半部分での「ふるさと」に対する気持ちが相反していることに、この詩の魅力を感じました。犀星は時と場合によって「ふるさと」に対しての気持ちが変わるのだなと思いました。「ふるさと」に限らず、どんなことでも感じることは人それぞれの自由なので、この詩でも主観的、あるいは客観的に読んでみるとまた違った魅力に出会えるのではないかと思います。



今月の
1枚

「何にでもなれる私」

渡部 愛樹 (中3・高校)